

令和元年度 徳島県ふるさと・水と土保全対策懇話会 会議録

1 日 時 令和2年3月27日（金） 午後1時30分から午後3時まで

2 場 所 徳島グランヴィリオホテル 1階ヴィリオルーム

3 出席者

【委員】 田中委員，西崎委員，山部委員，上家委員，川瀬委員
（欠席：坂口委員，井筒委員）

【県】 農山漁村振興課長，農村環境担当2名

4 懇話会次第

1)あいさつ

2)自己紹介

3)協議内容

①ふるさと水と土保全対策及び棚田地域等保全対策の概要について

②令和元年度の事業経過について

③令和2年度の事業計画について

④意見交換

⑤その他

5 会議録(事務局説明の後，田中委員の進行による意見交換の内容を記録)

委員「上勝の棚田のライトアップに、去年見に行ったんです。すごくきれいでね。
そのようなイベントにも関わってるんですか。」

県「はい。今年度も、応援し隊事業で、ライトの設置作業をお手伝いさせていただきました。」

委員「上勝町が指定棚田地域になっているということですが、これは全国初？」

県「はい、全国初です。」

委員「指定されることによって、何か事業がしやすくなったりするんですか。」

県「一つは、中山間の事業に優先採択。5省庁から、優先採択を受けられ、農林水産省では中山間直接支払いで、棚田加算を受けられるという予定になっております。」

委員「ふる水指導員の補助金事業が、何十年も同じであり、物価も上昇しているので、上限金額を上げられないでしょうか。」

県「当初より同じ上限額なので、今後検討いたします。」

委員「地域の外から入って来る人は、やっぱりすぐ帰るんです。何もなくて言うてね。なので心配なんです。わたしたちや70前後の者が若手で頑張っています。上勝では幻の柑橘と言われる、ユコウを大学と協力して商品化しようとしています。ユコウは、他の柑橘類に比べて味もまろやかやし、おいしい。」

委員「ヨモギ、フキ、ワラビ、ゼンマイなどは、鹿が食べてよだれがつくと、次絶対生えないんです。毒があるんです。なので、山に行ったり川に行ったりして採っています。」

委員「8ページの環境調査の関係で、私の地域でも高齢化が進んでおり、これから草刈りや泥上げをどうするかというのが、大きな課題となってきている。そんな中、環境をどうするかというより、実際に管理する人の立場から見ると、草ボーボーになって管理できないようになってきている。今の農家の実態に合った仕方というのを、抜本的に考えないといけない。たとえば、さっきの話のように、鹿のよだれを除草剤に使えたらいいなど。」

県「むらづくり調査事業なんですけど、環境を保全する、というスタンスではありません。高齢化により、草刈りや水路掃除が大変という状況で、一方では、多面的な機能の一つである、自然環境も守っていく必要がある。そこで、環境との調和ということで、一部のところで、いろんな生物が住める環境を残します。というところで、この2地区については、これから圃場整備を進めていくということで計画しているところであります。」

委員「よく、農水省のパンフレットとか見ますと、逆引きパンフレットとかありますよね？この機械が欲しいんだったら、この事業があてはまるんじゃないですかとか。ひょっとしたら、課をまたいで、とかいう話になるかもしれないんですけど、農家の人は、分かりやすいと思います。ぜひ、考えていただければと思います。」

県「逆引きパンフレットについて、今後検討してまいります。」